

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 118

学校名 愛知県立安城高等学校

校長氏名 佐々木 亨

研究責任者職・氏名	教諭・■■■■	事務担当者職・氏名	主査・■■■■
研究テーマ	目標達成に向けて努力し続け、確かな学力を養うことを目指した主体的・対話的で深い学びの推進		
本年度の研究目標	(1) 答えのない社会を生き抜くために、試行錯誤をしながら粘り強く課題に向かう態度を育成する。 (2) 素直に学習に取り組む生徒の良さを生かしつつ、主体的な学びを深めるために、自分で課題を見つけより良い解決をはかる力を育む。 (3) 本校生徒の特性を踏まえ、知的好奇心を引き出す授業を実践する。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
4月1日	あいちラーニング推進委員会発足		
5月27日	第1回あいちラーニング推進委員会 ・あいちラーニング推進事業の概要説明	該当教員	
6月11日	第2回あいちラーニング推進委員会 ・研究テーマ及び目標・取組みについて	該当教員	
6月13日	教育委員会高等学校教育課学校訪問・御指導 (愛知県教育委員会高等学校教育課 主査 愛知県総合教育センター研究指導主事)	校長・教頭・教務主任、図書情報主任	
6月17日	第3回あいちラーニング推進委員会 ・高等学校教育課学校訪問報告 ・各教科の重点目標検討	該当教員	
7月8日	第4回あいちラーニング推進委員会 ・各教科ごとの取組みについて	該当教員	
7月29日	第1回連絡協議会 ・主管校研究計画 ・重点校研究計画 ・情報交換	校長・教頭・教務主任	
8月20日	校外研修 ・3大学合同対話型パネルディスカッション	教頭・教員	
9月5日	現職研修 ・1人1台端末の効果的な活用	全教員	
10月30日	重点校視察【刈谷北高校】(国際探究、総合的な探究の時間)	教頭	
11月8日	重点校視察【安城東高校】(物理、数I、数B、数C、保健、)	該当教員	

11月11日	世界史探究) 重点校視察【刈谷工科高校】（製図、電気回路A、論表I、 体育、工業情報数理） 公開授業（地歴、数学、保健体育）及び研究協議会 （刈谷北高校、安城農林高校、刈谷工科高校、刈谷東高校 篠目中学校、安城南中学校、翼小学校から参加）	該当教員 2年8組（地理総合） 3年8組（数C） 1年4,6,8組（体育）
11月12日	重点校視察【安城農林高校】（地理総合、数I、野菜、畜産）	該当教員
12月9日	第6回あいちラーニング推進委員会 ・公開授業反省 ・来年度に向けて	教頭
12月10日	重点校視察【鶴城丘高校】（財務会計I、造園計画、総合的 な探究の時間）	教頭
12月11日	重点校視察【刈谷東高校】（公共、リベラルアーツ国語、 科学と人間生活、数I）	
12月26日	第2回連絡協議会 ・主管校からの報告 ・重点校からの報告 ・情報交換	該当教員
2月14日	先進校視察 ・三重県立名張青峰高校を訪問	該当教員
2月21日	現職研修 ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授 名古屋大学教育学部付属中・高等学校長 柴田 好章 先生 による講話 『教科指導における探究的な取組みを通じた生徒の主体性 の育成に向けて』 探究的な取組みの様々なスタイルを具体的に教えていた だき、来年度の授業を見る会に繋げていくべく全教員の 意識を高めた。	全教員
3月13日	先進校視察報告会 ・三重県立名張青峰高校の先進的な取組み、特に「ICT活用」、 「グローバル学習」、「探究活動」について具体的な内容につ いて全職員での共有を図った。	全教員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

- (1) あいちラーニング推進委員会活動について
- 第1回 研究テーマアンケート（グループウェアで実施）結果について
- 第2回 研究テーマの決定及び授業実践案（グループウェアアンケートで募集）の共有
- 第3回 愛知県教育委員会高等学校教育課御指導の伝達
- 第4回 各教科の重点項目の確認
- 第5回 公開授業及び研究協議会の情報共有
教員間で理念や方向性について、共通認識を持つことが重要であると考えたこ
とから、7月までに4回の委員会を開催し、意見交換や情報共有に努めた。

(2) 連絡協議会について

・第1回（令和6年7月29日実施）

西三南地区7校（鶴城丘高校、安城農林高校、安城東高校、刈谷工科高校、刈谷東高校、刈谷北高校、刈谷高校）を本校に招き、令和6年度の各校の計画及び情報交換を行った。

・第2回（令和6年12月26日実施）

第1回と同様に、令和6年度の各校の進捗状況を中心に情報交換を行った。

(3) 公開授業及び研究協議会

日時：令和6年11月11日（月）14:25～16:00

実施科目・地理総合（2年）

内容：地理総合 国際理解と国際協力 宗教・歴史①ヒンドゥー教と生活文化の関わり
職業選択の自由の是非について、ペアでの意見交換

実施科目・数学C（3年）

内容：総合演習（空間図形）

生徒が自ら選んだ問題の解説 問題に対する多様な解法の共有

実施科目・体育（1年）

内容：バドミントン

目標の明確化 フォーム等の確認（タブレット使用）上級者との比較（動画視聴）

研究協議：

【テーマ】主体的な学びについて

- ・進路目標から必要性を感じさせる（数学C）
 - ・体験を通して学びの必要性に気づかせる（体育）
 - ・発表の場を設けることにより、他者に向けて自分の考えをまとめる習練を行うとともに他者の意見に触れることが自己の意見に与える影響に気づかせる（地理総合）
- 上記三点をはじめとした主体的な学びに向かわせる工夫がされていたとの評価をいただいた。



(4) 先進校視察

訪問日 令和7年2月14日（金）

訪問校 三重県立名張青峰高等学校

訪問者 本校教員4名

対応者 名張青峰高校 学校長、主幹教諭、ICT担当

訪問内容

- 1 名張青峰高校についての概要説明
- 2 授業見学【2年数学C、1年英語コミュニケーション1】
- 3 質疑応答等

○ICT教育について

2016年開校以来ICT教育に力を入れており、2021年Google for Education 事例校に認定された。2022年から全教職員・全生徒がChromebookを持っており（生徒は個人所有）、学校生活、教育活動のあらゆる場面で活用されている（筆記用具などの文具と同じレベルの使用頻度とのこと）

Create(創作)、Communicate(つながり)、Personalized(個別最適化)の3つのポイントを大切にICTの活用が進められている。

○グローバル教育について

普通科未来創造コースを中心に様々な国際交流プログラムが組まれている。留学生受け入れ、短期留学派遣(オーストラリアの姉妹提携校訪問)、オンライン交流(姉妹提携校)、オンライン英会話(DMM英会話)等多様な取組みがある。

グローバルウィークでは全ての授業でグローバルに関わることに触れる(教科科目を超えて実施)取組みがされており、英語に限らずグローバルな視点を養う教育活動が実践されている。

オンライン英会話は1,2年次に生徒全員が1対1で25分間海外の方とオンラインで話をする体験をさせている。期末テスト後に時間を設定し、1年に3回(1回25分間)の英会話体験を実施している。生徒たちには緊張もあるが、達成感も大きいとのこと。

○青峰探究Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ → 総合型入試で使える探究を

・Ⅰ(1年次)

探究の基礎(知る→探究→クラス発表→代表者発表の繰り返し)

自分、進学、SDGs、「名張市を活発にするには」(最終テーマ)

・Ⅱ(2年次4月～10月)

アントレプレナーシップ高校生RING(リクルート) → 全国大会につながる

・Ⅲ(2年次11月～3年次6月)

進路実現探究(総合型選抜で使える探究) → AIが伴走(教員の負担減)

(成績で青峰に来た生徒達が成績で大学選びをすることを止めたい→何が好きで何をしたいかを大切に)

(5) 現職研修

日時 令和7年2月21日(金)15時30分から

場所 本校図書室

講師 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

名古屋大学教育学部附属中・高等学校長 柴田 好章 様

題名 「教科指導における探究的な取組みを通じた生徒の主体性の育成に向けて」

様々な教科・科目における探究的な学びの進め方を具体的な授業例を明示されお話しいただいた。現在の勤務校である名古屋大学教育学部附属中・高等学校での様子もお話しいただき、本校教員の学びが大きく深まった。学術的な裏付けを元に、具体的に教えていただいたことで、本校生徒の良さを十分に認め、伸ばしながら、更に探究的な学びにつながる授業実践についてそれぞれが考える機会となった。

(6) 今後の取組み

今年度、各教科ごとに探究的な学びを進めていくための方策や工夫について考え、それぞれの授業で実践した。来年度は「授業を見る会」などの機会を通して、教科を超えて学び合いを進めていく。また、「授業を見る会」の期間中に今年度講話をいただいた名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授の柴田先生に御来校いただき、授業実践を見ていただく予定である。その後、柴田先生からの御指導を踏まえて研究を進め、11月に予定している公開授業に向けて準備を進めていく予定である。